

1

自然に「ごみ問題」

考え方

1 ①段落で、「ごみはいったいどのように処理されているのでしょうか」と問いかけたあと、続く②③④段落で、どのようにごみが処理されているのかを説明しています。ごみの処理についての具体的な説明は③段落と④段落にあります。そして、最後の⑥段落で筆者の意見を述べています。

このように、段落の構成をおさえると、文章の内容が理解しやすくなります。段落のはたらきをとらえる場合には、「まず」「つまり」などの段落の最初にある言葉に注目するとよいでしょう。

2 筆者の意見は最後の⑥段落で説明されています。つまり、⑥段落の「わたしたちは、大量にものを消費する今のくらしを見つめ直し、ごみをへらしていかなければなりません。」という一文に、ごみ問題を解決するにはどうする必要があるのかについての筆者の意見が述べられているのです。

答え

1 ③段落と④段落

2 わたしたちは、大量にものを消費する今のくらしを見つめ直し、ごみをへらしていかなければなりません。

2

むづかしい言葉を使って文を書く

考え方

1 「持てあます」は、「だだをこねる子どもを持てあます」のように使います。

2 「もどかしい」は、「登場人物の気持ちのすれ違いを見ている」ともどかしく感じられる」のように使います。

3 「見るに見かねて」は、「見るに見かねて手をかした」など、困っている相手に手助けをする文脈で多く用いられます。

4 「まぎれもない」は、「彼が事件の犯人なのは、まぎれもない事実だ」のように使います。

5 「たらい回し」は、「だれも関わりたがらない問題をたらい回しにする」などの否定的な文脈で多く用いられます。

答え

【例】

1 次のバスが来るまで一時間もあって、ひまを持てあます。昨日の夜に読んだばかりの本の題名が思い出せずもどかしい。

3 ぼくは、まいごの子どもが泣いているのを見るに見かねて助けてあげた。

4 つくえの上にあるぼうしは、まぎれもなくわたしのものだ。

5 係の人に本のある場所をたずねたが、わかる人がいなくてたらい回しにされた。

Z会 × すたペンドリル

考える楽しさを体験しよう!



くわしくはこちら!

Z会の本



かっこいい小学生になろう

3

「ことわざを使って文を書く」

考え方

- 1 「兄」が慎重に行動している例をあげましょう。
- 2 似た意味の言葉には、「五十歩百歩」「大同小異」があります。
- 3 順調だったものが突然つまづく例をあげましょう。
- 4 大きな目標に向かって少しずつ歩み始める例をあげましょう。
- 5 文の前半には、努力や助けが必要な状況を、後半にはその努力や助けがまったく足りなかったことを入れましょう。

【例】

- 1 (兄は石橋をたたいてわたるようなせいかくで、) 明日の遠足のわすれものがないように、リュックサックを何度もたしかめている。
- 2 よく似た兄弟がどちらがかっこいいか言い争っている(が、わたしから見ればどんぐりのせいぐらべだ。)
- 3 一位でゴールできそうだったのに直前で転んでしまう(なんて、まさに一寸先はやみだ。)
- 4 (千里の道も一歩からと考えて、) ゆめに向かって今できるところから始めていこうと思う。
- 5 夏休みの宿題をわすれていて、始業式前日にあわててとりかかった(が、焼け石に水で、)まったく終わらなかった。

Z会 × すたペンドリル

考える楽しさを体験しよう!



くわしくはこちら!

Z会の本



かっこいい小学生になろう